

井勝 久喜

日本人の心と環境



明治以後の日本人は、西洋文明こそが先進文明であり、それを取り入れることが日本を先進国にすることだと考え、懸命に西洋化を目指してきたように思います。しかし、資本主義経済と一神教の教えを主体とする西洋文明が世界の自然を破壊してきたことを考えたとき、本当に西洋文明が先進文明なのであろうかと、再考してみるときに来ていると思います。

ところで、日本人は世界の中でとても特殊な民族だと思うのは私だけではないと思います。2011年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命を奪いました。しかし、未曾有の災害の中、多くの日本人は暴動や略奪も起こさず、泣き叫びもせず、他者を思い遣りながら耐えてい

ました。「損壊した民家から救い出される際、救助隊員に不便をかけたことを謝罪する」こんな民族は世界を見渡しても多くはないでしょう。「日本社会に根付く義務感、逆境での品位、謙虚さ、寛容、勇気のたまものだ」、「日本独特の榮譽を重んじ、恥を知り、礼を重んずる特性」など、世界から日本に寄せられた称讃の声は日本人の心を世界に示したと思います。

経済優先社会の中でも日本人としての行動規範が残っていたことを日本人として誇りに思います。ではなぜ、日本人はこのような心を持っているのでしょうか。「日本人は、自然を信じ、人間を信じ、太陽や森、山や川や海に祈る心を持ち、他者の命に対して畏敬の念を持っている。自然の資源を使い尽くさないで、循環的に利用し、自らの欲望をコントロールし、「利他の心」と「慈悲の心」を持っている。」日本人の行動規範は、稲作漁撈民として自然と共に生きてきた日本人が守り通していたものだと環境考古学者の安田喜憲さんが言っています。自然を崇拜する心が日本人の行動規範を作り上げてきたのでしょ

うか。自然と共存してきた日本の文化や考え方は、古い考えのように思えますが、実はこれからの世界をリードしていく先進的な考え方なのではないでしょうか。

人間の欲望を後戻りさせることは困難だといわれています。市場原理主義の現代文明が物質的な豊かさを追い求めるものである限り、地球環境は破壊され続けることでしょう。市場原理主義が支配する現代文明では、人間の欲望を満たしながら持続可能な社会を創ることは不可能であり、現代文明はいずれ崩壊することになるでしょう。現代文明が崩壊を始めたとき、人類は多くの苦難を味わうことになるでしょうが、それを乗り越えて新しい文明を作らなければなりません。新しい文明は、自然と共生することができる文明でなければ持続できません。そのとき、日本人のメンタリティーが世界最先端の考え方として世界をリードすることができれば、持続可能な新しい文明が創れるかもしれません。経済力や軍事力で世界をリードするのではなく、心の豊かさで世界をリードしたいものです。

井勝 久喜 氏

1956年生まれ

鳥取県出身

吉備国際大学国際環境
経営学部・学部長・教授
環境省登録環境カウンセラー（市民部門）
(財)おかやま環境ネットワーク理事